

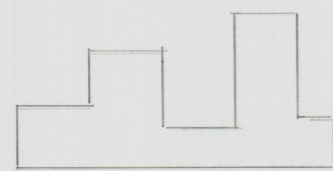
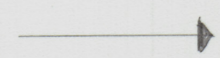
壁で開く

設計主旨

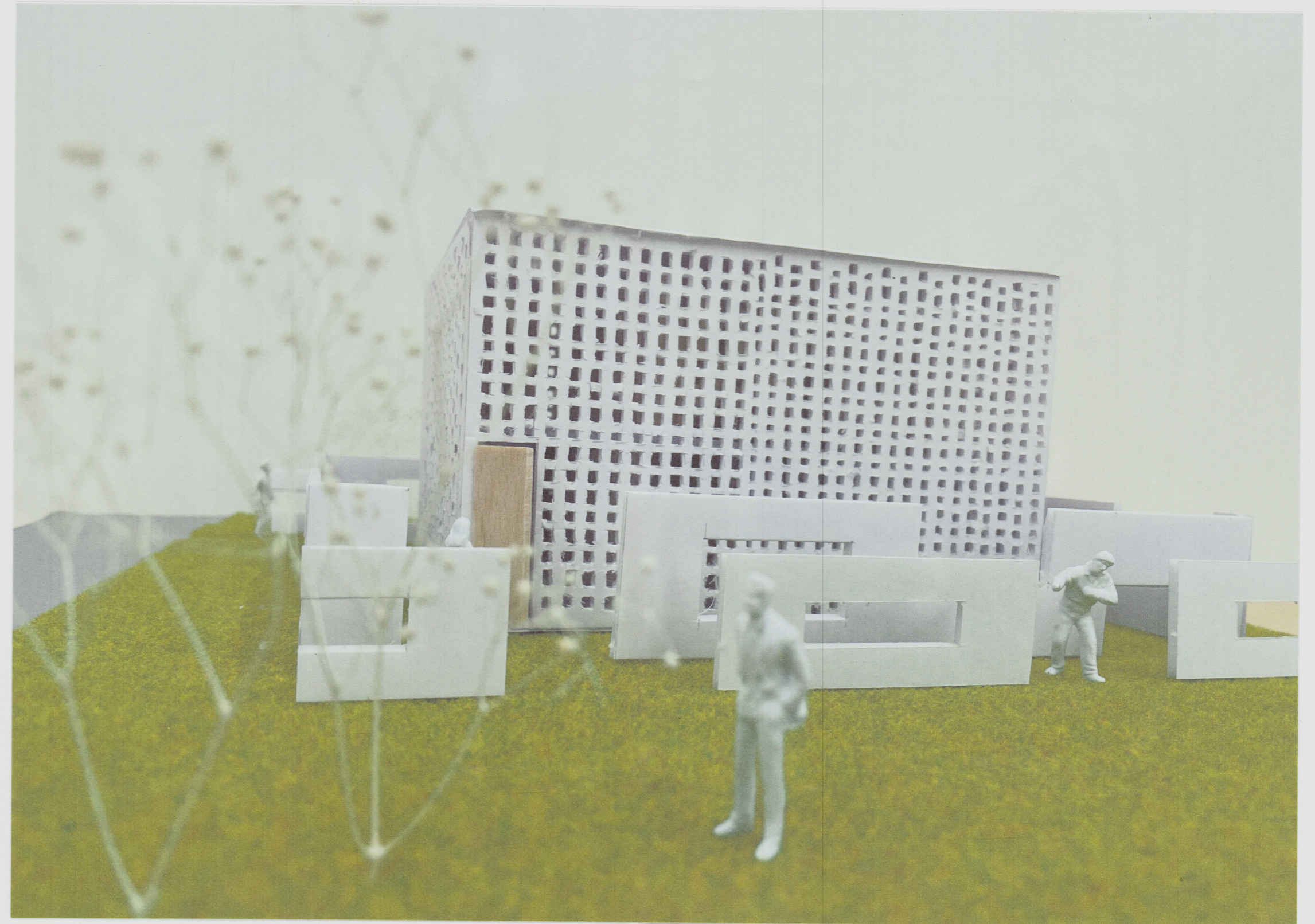
計画地のすぐ西側は交通量が多い(特に夕方)。そのため計画地周辺の住宅は、塀で完全に外界と遮断している状況を目の当たりにした。私はそのような現状から、完全に遮断しない空間であることと同時に地域へ開いていくことを満足させる住居を考えた。

ダイヤグラム

塀のあり方に着目

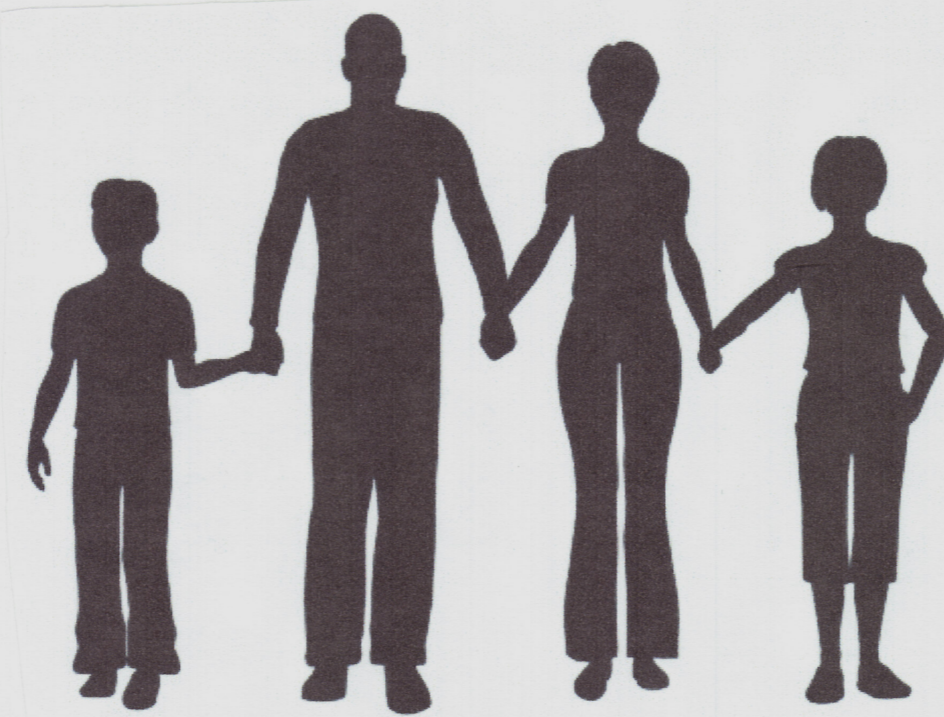


規模を大きくしたい!



居住者像

- ・父、母、兄、弟の4人家族。
- ・父は有名な芸術家で、一家は世界中を転々としていた。
- ・数々の芸術作品を見てきた一家は日本に帰国し、日本の自然を感じるため袋井市に住むこととなった。
- ・一家は一般常識から離れた芸術作品が好き。



敷地周辺にはあいまいな壁(窓枠が大きい、高さが低い)が設置されており、住宅に近づくと壁の存在感が大きくなる(窓枠が小さい、高さが高い)特徴がある。

→建物と周辺の区切りをあいまいにするため

建物の壁は内部の状況(外に見られない必要がある空間など)に合わせて、窓枠の大きさが異なる。

周辺の壁は共有スペースで、誰でも通行が可能である。

設計データ

敷地面積 510 m² 延べ床面積 148.84 m²

建築面積 79 m² 1階床面積 74.42 m²

2階床面積 74.42 m²

外壁 鉄筋コンクリート 内壁 天竜杉